

平成 26 年 5 月 15 日

各 位

福岡県福岡市博多区博多駅前三丁目 2 番 8 号
株式会社アイフリークホールディングス
代表取締役会長兼社長 永田 万里子
(コード番号：3845 JASDAQ)
問い合わせ先 管理担当取締役 芦田 克宣
電話番号 03-6743-3000 (IR)
U R L <http://www.i-freek.co.jp/>

中期経営計画（2014 年度～2015 年度）に関するお知らせ

当社は、2014 年度（当期）及び 2015 年度（来期）の 2 か年を対象期間とするアイフリークグループ中期経営計画を策定いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

※当期（2014 年度）の具体的な事業の取組みについては、別途公表させていただきました
「2015 年 3 月期 当社事業展開について」にてご説明させていただいております。

記

1. 当社グループの取組みについて

当社グループでは、「人々の想いが伝わる 繋がる 広がる 世の中の日常に喜びと感動を提供します。」という経営理念のもと、モバイルコンテンツ事業（知育アプリや電子えほん等を含む。）及び E コマース事業を展開しております。

当社グループは、上記経営理念のもと、モバイルコンテンツ事業（知育アプリや電子えほんを除く。）においては、昨今のフィーチャーフォン（以下、FP という。）からスマートフォン（以下、SP という。）への端末変化に対応してまいりました。また、知育アプリや電子えほん等のモバイルコンテンツ事業においては、新規事業として、タブレット端末の台頭による新規市場への対応を進めてまいりました。さらに、E コマース事業においても、薬事法の規制強化等を含め外的要因による業績の悪化から脱却することができない状況の中、抜本的な改革を進めながら事業を展開してまいりました。

上記のような取組みを通して、モバイルコンテンツ事業（知育アプリや電子えほん等を除く。）において、FP から SP への収益化対応が大幅に進み、2013 年 9 月末には、コンテンツ課金売上高における SP の売上高が FP の売上高を上回るまで進捗してまいりました。また、モバイルコンテンツ事業の中でも、知育アプリや電子えほん等の新規事業においては、会員基盤の構築と課金化

の取組みを進めた結果、当期（2014年度）には事業の収益化が見通せる状況となってまいりました。さらに、Eコマース事業においても、事業内容やコスト構造の抜本的な見直し等により、新たな事業展開を検討することができる状況になってまいりました。

このような状況下において、将来のアイフリークグループの継続的な成長を目指し、中期経営計画（2か年計画）を策定いたしました。

2. 中期経営計画の概要

当社グループの中期経営計画は、「活性のステージへの変貌」というスローガンを掲げ、グループ全体の各事業における重点課題を厳選し、課題解決に向けての各種施策を実施していくことで、近年停滞している当社グループの業績を回復かつ飛躍させ、グループ全体としての企業価値の向上を図ることを目標としております。具体的には、当期で単年度黒字化とし、来期において更なる増収増益の実現を目指してまいります。

（1）中期経営計画重点施策

①事業基盤の再構築と飛躍について

■売上高及び利益の向上

当社が長年培ったモバイルコンテンツ事業（知育アプリや電子えほん等除く。）においては、引き続き当社グループのコア事業として、今まで以上に徹底したPDCAを実践し、より一層の売上高及び利益の向上を目指してまいります。また、知育アプリや電子えほん等のモバイルコンテンツ事業については、投資フェーズから収益化への転換点に差し掛かっていることから、費用対効果を鑑みながら積極的な投資をしつつ、当社グループの新しい収益の柱として成長させていくことを目指してまいります。

■グループ企業としての総合力の活用

グループ企業の総合力を一層の強みとして活かせるように、グループ各社の事業領域で得られたノウハウの更なる共有により、経営資源の一層の有効活用を図り、グループとして相乗効果による売上高の増加及びコスト削減による利益の増加を目指してまいります。

②新規取組みと海外展開について

■新規事業への取組み

マーケットの動きを的確に捉えた事業展開を推進するために、将来を見据えた新たな分野へのコンテンツ提供を進めてまいります。また、既存事業とのシナジーを最大限に活かすべく、有機的に各社が繋がり連携しながら新規事業への取組みを加速させてまいります。

■海外への取組み

モバイルコンテンツ事業においては、SP 端末やタブレット端末の台頭により、グローバルな展開が可能な環境となってまいりました。当社グループの強みである「言語の壁を乗り越えることが可能なコンテンツ」「多言語への対応が比較的容易なコンテンツ」を活かし、順次、海外展開の機会を本格的に模索してまいります。

③人材戦略について

■次世代経営幹部の育成とマネージャー層の育成

アイフリークグループの次世代経営者育成のため、若手の重要ポストへの登用を積極的に進めてまいります。また、現マネージャー層の次に続く人材への教育を推進し、継続的な企業価値の向上を担っていただける人材の育成を加速させてまいります。そのためにも、他に真似のできない独自の人事戦略を構築・実践してまいります。

■ビジネススキルの習得と醸成

グループ全体で、より一層のコンプライアンス意識の向上を図るとともに、全役職員一人ひとりが業務スキルの向上を図りながら、企業価値の向上を目指せる「プロフェッショナルな仕事人」としての人材スキルのレベルを高めてまいります。

(2) 連結業績数値（実績及び予想）

（単位：百万円）

	2014年3月期 実績	2015年3月期 予想数値	前年比※	2016年3月期 目標数値	前年比※
売上高	1,410	1,590	112.8%	2,094	131.7%
営業利益	△375	3	-	204	-
経常利益	△384	1	-	202	-
当期純利益	△616	1	-	202	-

※小数点第2位四捨五入

- ・上記の計画及び数値目標は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により計画と異なる場合があります。

以 上